

2005年3月25日

各 位

上場会社名	JFE商事ホールディングス株式会社
コード番号	3332
本社所在地	東京都千代田区大手町二丁目7番1号
本店所在地	大阪市北区堂島一丁目6番20号
問い合わせ先	総務部長 久保 勝
電話番号	(03) 5203 - 5055

JFE商事グループ中期経営計画について

当社は、2005年度～2007年度を対象期間とした、「JFE商事グループ中期経営計画」を策定いたしましたので、添付別紙のとおりお知らせいたします。

以 上

2005年3月25日  
JFE商事ホールディングス株式会社

## JFE商事グループ中期経営計画について

JFE商事グループは、発足後初の経営計画となる「JFE商事グループ中期経営計画〔計画期間2005年(平成17年)4月から2008年(平成20年)3月〕」(以下、「中期計画」という)を策定しました。

当社グループは、昨年10月1日に川鉄商事とエヌケーケートレーディングの統合・再編により誕生し、事業環境の変化に柔軟かつ的確に対応できる新たな体制として、持株会社の傘下に、JFE商事、川商フーズ、川商セミコンダクター、川商リアルエステートの4事業会社を擁してスタートいたしました。

発足初年度となる2004年度の業績は、国内外の旺盛な鉄鋼需要を背景に鋼材需給が逼迫、鋼材単価が上昇し、約260億円という高水準の連結経常利益を上げることが確実な見通しとなっています。

このたび策定した中期計画においては、鋼材需給の変化や金利の動きなど、事業環境の変動リスクを踏まえ、将来の事業環境が変動した場合でも、高い収益を上げられる強靱な会社とするため、『鉄鋼商社でトップレベルのエクセレントカンパニーを目指す』ことを経営ビジョンとして掲げ、収益規模の拡大と効率性の向上による持続的な成長を目指すことといたしました。

当社グループはJFEグループの直系商社として培ってきた機能である、「JFEグループ内における情報連携・戦略の共有化」や「顧客密着型の事業構造」のさらなる強化・拡大を図り、JFEグループ全体の業容拡大・成長に対応してまいります。これにより、JFEグループにおける当社の比重を高めるとともに、より一層、事業活動における高水準のパフォーマンスを実現させ、売上高2兆円、経常利益290億円等の経営目標や経営ビジョンの達成を目指します。

### (経営目標(連結ベース))

	08/3期	( 05/3期見通し )
売上高	2兆円	( 1兆 4,900億円 )
経常利益	290億円	( 260億円 )
資本勘定	900億円	( 570億円 )
有利子負債	1,200億円	( 1,650億円 )
株主資本比率	14.5%	( 9.7% )
DER	1.3倍	( 2.9倍 )

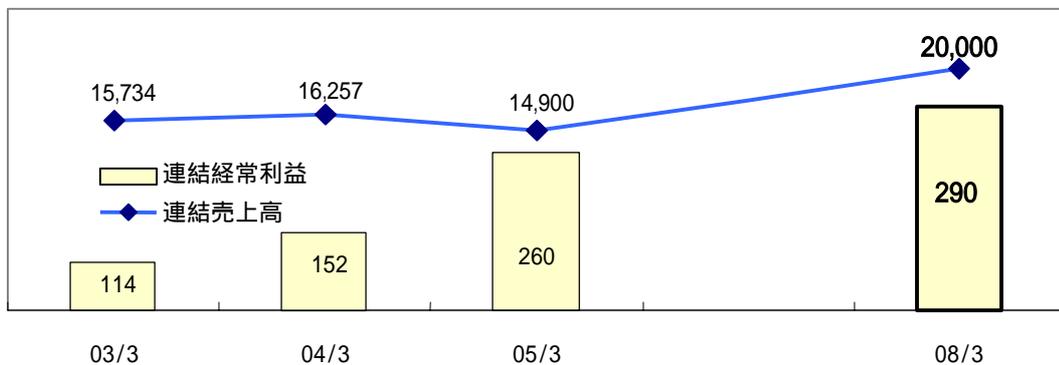
【1】 経営目標・・・安定的収益基盤の確立と、バランスシートの改善を軸に、下記の目標に取り組む

1. 安定的収益基盤の確立

(1) 連結売上高：2兆円、連結経常利益：290億円

- ・強い収益力の確保により、環境変化に対応可能な、継続的に力のある企業グループを目指す。
- ・04年度の経常利益見通し260億円には、鋼材需給がひっ迫、鋼材単価が大幅に上昇したことによる一時的な利益も相当程度含まれる。本3ヵ年では鋼材需給の変動や金利等の変動リスクを織り込んだうえで、08/3期における経常利益290億円を目指す。

(収益力の推移) (億円)



(03/3～04/3については、旧川鉄商事(株)および旧エヌケーケートレーディング(株)の合算数値(以降同様))

(2) 新規投資の実施：200億円規模の投資を実施

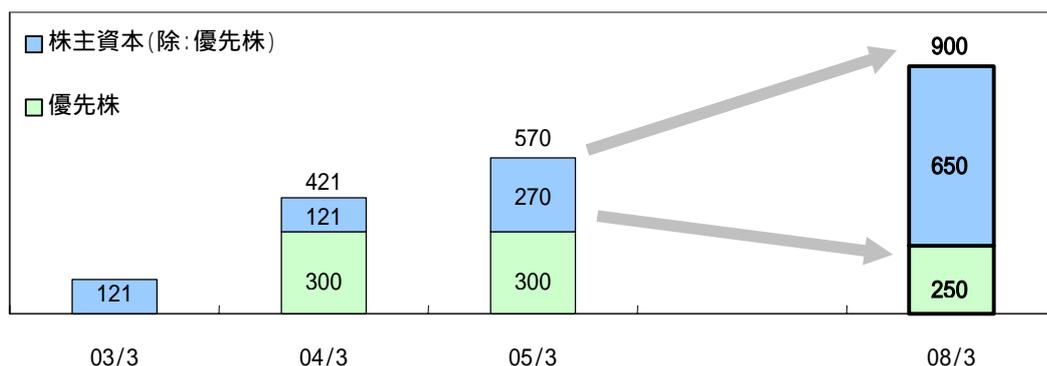
- ・収益性の向上を重視した投資  
(加工拠点のリフレッシュ・拡大、資源開発案件への投資、基幹システムのリフレッシュ)

2. バランスシートの改善

(1) 連結資本勘定：900億円 (05/3見通し比：+330億円)

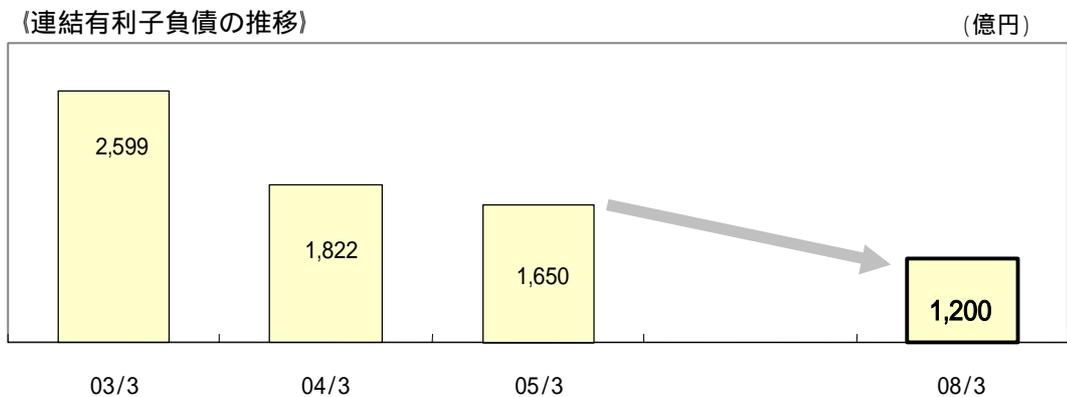
- ・普通株式への配当、優先株式の償還を実施しつつ、株主資本の充実を図る

(連結資本勘定の推移) (億円)



(2) 連結有利子負債：1,200 億円 (05/3 見通し比：▲450 億円)

- ・ 05 年 3 月末見通し比、約 3 割を削減
- ・ 収益によるキャッシュフローと、使用資金効率化による削減  
(目標達成に向けた投下資本利益率の基準など、資金効率の目標を設定)



上記(1)(2)の達成に伴う財務指標の大幅改善 資金調達コストの低減、収益性の一層の向上

- ・ 株主資本比率：14.5% (05/3 見通し:9.7%)、DER：1.3 倍 (同:2.9 倍)

### 3. 目標数値(一覧)

[億円]	04 年 3 月期	05 年 3 月期	08 年 3 月期	05 年 3 月期比
売上高	16,257	14,900	20,000	+ 5,100
経常利益	152	260	290	+ 30
純利益	▲ 44	150	170	+ 20
資本勘定	421	570	900	+ 330
(うち、優先株式)	(300)	(300)	(250)	( ▲ 50)
有利子負債	1,822	1,650	1,200	▲ 450
総資産 *1)	5,714	5,900	6,200	+ 300
株主資本比率	7.4 %	9.7 %	14.5 %	+ 4.9 %
DER	4.3 倍	2.9 倍	1.3 倍	-
ROA	2.7 %	4.4 %	4.7 %	+ 0.3 %
人員数 *2)	5,042 名	4,640 名	4,890 名	+ 250 名

04/3 については、旧川鉄商事(株)および旧エヌケーケートレーディング(株)の合算数値

\*1) 総資産：売上拡大に伴う営業債権増、新規投資の実施により約 600 億円の増加となるが、資産削減・資金効率の向上などにより、増加額の圧縮を図る。

\*2) 人員数：管理部門人員の効率化を進める一方、売上拡大に対応し人員数は増加。  
(主な要因は海外加工拠点の拡充・強化に伴う現地雇員増)

## 【2】 各事業会社の取り組む施策

### 1. JFE商事：

JFEスチールの直系商社として戦略同期化を図るとともに、流通・調達の中核的機能を強化する

#### (1) JFEスチールの直系商社機能のさらなる強化

《鉄鋼》 強靱で効率的な流通構造の構築

- ・ 海外加工センターの強化と加工拠点の新設
- ・ マーケットニーズに即したグループ内最適販売体制の構築
- ・ 有力流通とのパートナーシップ関係の強化

《原材料・資機材》 JFEスチールのニーズに応じた安定的かつ効率的な調達スキームの構築

- ・ 鉄鋼原料の長期的・安定的供給体制の強化・拡大
- ・ 資源開発型投資案件の推進

#### (2) 顧客信頼度No.1を目指したCSの向上

- ・ One-Day Response 活動の推進
- ・ JFEスチールの直系商社機能を生かしたオンリーワンサービスの提供

#### (3) 連結経営の強化

- ・ グループ会社の再編を含めた事業効率の徹底的な向上
- ・ 効率的な連結経営管理手法の整備

#### (4) コスト競争力の強化

- ・ 業務改革・革新と基幹システムのリフレッシュによる生産性向上

#### (5) 人材の育成・確保

- ・ 海外事業の拡大に対応した人材の育成・確保
- ・ 連結経営に資する人材の育成・確保

## 2. 川商フーズ

自社ブランドを持つ強みを生かした特色のある食品商社を目指し、安定的収益基盤の確立を図る

### (1) 海外における“GEISHA”缶事業の強化・拡大

- ・ 西アフリカ、中近東、米国など重点地域における販売力強化  
(エージェントの活用、新規商品の投入)
- ・ 東アジア地域での仕入力強化

### (2) 国内事業の選択的展開

- ・ 海外における原料調達・加工ネットワークの活用による優良食品メーカー向け原料および半製品取引の拡大
- ・ 国内事業会社における事業の絞り込みと集中

### (3) 企業体質の強化

- ・ 組織・人員体制の見直し
- ・ 総コストの削減

## 3. 川商セミコンダクター

顧客・メーカー双方のニーズに応え、独自の付加価値とソリューションを提供できる商社を目指し、安定的収益基盤の確立を図る

### (1) 川崎マイクロエレクトロニクスとの戦略同期化による販売力の強化

- ・ 役割・機能分担の明確化による販売活動の拡充

### (2) 新規開発商品への取組み強化

- ・ 特色あるニッチ商材の開発

## 4. 川商リアルエステート

保有不動産の売却推進により、有利子負債の削減を図る

以上